奈文研ニュース
2004.Jun No.13
NARA CULTURAL PROPERTIES RESEARCH INSTITUTE
独立行政法人 文化財研究所
奈良文化財研究所
〒630-8577 奈良市二条町2丁目9-1
http://www.nabunken.jp

海外展「日本の考古－曙光の時代」

本展覧会は、文化庁が2004年7月24日から2005年1月31日まで、ドイツ連邦共和国ライス・エンゲルホルン博物館(マンハイム市)及びマルチン・グロピウス・バウ展示館(ベルリン市)において、我が国の後期旧石器時代から奈良時代にわたる代表的な考古資料を展示し、考古学研究の現況を紹介しようとするものです。

この企画に対して、奈良文化財研究所は文化庁に全面的に協力し、2003年度から各時代にわたる出品リストの作成、図録用の写真撮影や本文執筆などにあたり、2004年5月には出品の借用・集荷にも携わりました。この間、文化庁やドイツの日本における責任者であるシュタインハウス氏との協議は幾度となくありました。

展示会への出品は、旧石器・縄文時代が19件(うち重要文化財10件)、弥生時代が40件(うち国宝2件)、古墳時代が22件(うち重要文化財13件)、飛鳥・奈良時代が27件(うち国宝3件、重要文化財4件)です。1件(1遺跡)で出品1点の場合も稀にありますが、1件で出品100点近くの場合もあり、出品総点数は約1500点と相当の数量になります。

飛鳥・奈良時代の出品は、その多くが奈良文化財研究所の発掘したものです。展示は、飛鳥から大都市・平城京が形成されるまでの歴史を、復原図や建物模型で示すことから始めています。この時代に、碁盤目状の大都市が極東の列島にあったことに、ヨーロッパの人々はきっと驚くでしょう。天皇の内裏正殿模型、長屋王邸や東院庭園の模型も古代日本の理解に役立つはずです。当時の政治・経済の成熟度は、「文書行政」「貨幣経済」「時を支配」という欄を設けて 解説しています。木簡、漆紙文書、筆・墨・硯、無文銀銭・富本銭・和同開珎などを展示して、法律に基づいた文書による行政がおこなわれていたことや貨幣が用いられていたこと、そして飛鳥・水落遺跡の水時計模型の写真パネルなどで、役人が時刻に従って精勤していたことを示しています。信仰については、山田寺・興福寺等から出土した磚仏(せんぶつ)・鎮壇具、絵馬・土馬・人形(ひとがた)・斎串(いぐし)・人面土器などの祭祀遺物を展示・解説しています。7世紀のハイテク工場であった飛鳥池遺跡については、ドイツ側の強い要望もあり、ガラス・鋳造・鍛冶・富本銭・漆等の生産に関わる代表的諸遺物を出品し、工房復原図も添えて成果を示しています。最後には、キトラ古墳など飛鳥・奈良時代の死後の世界にも触れています。

ドイツへの搬送は6月末。航路の安全と展覧会の成功を祈っています。　(協力調整官　毛利光俊彦)

平城宮内裏正殿模型（1/10）

長屋王邸模型（1/100）